

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
©日刊建設通信新聞社 2015

日綜産業の「クイックデッキ」 公共建築で初採用



山形県三川町が進めている町立東郷小学校屋内運動場天井等落下防止工事(施工)鶴岡建設・遠藤豊彦所長)に、日綜産業

18日から9月30日までで、進捗率は約70%(9月4日現在)となっている。

のシステム吊り足場「クイックデッキ」が採用され、写真、現場作業者などから好評を博して

同工事へのクイックデッキの採用は、仮設足場を担当した有賀組(鶴岡市・有賀哲社長)が遠藤所長に推薦して決まった。

山形県三川町立東郷小学校工事

いる。公共建築工事に同システムが採用されるのは全国で初めてとなる。

足場面積は750平方メートル。現場では、吊り足場が体育館の天井一面に設置され、あらかもも

工事は吊り足場を組み立て、既存の天井仕上げ材を取り外し、耐震金物に取り替えて天井仕上げ材を復旧、吊り足場を解体して完了となる。工期は6月

ともとの天井がそうであったかのような錯覚を覚えさせる。足場が上がると、一面に展開するフラットな床の上で、地上と遜色なく作業ができる。

遠藤所長は「どうしても浮き沈みがある従来の足場と比べ、作業性が格段に良い」とした上で「目に見えて安全であり、墜落・転落はほぼありえない」と、その施工性と安全性の高さに太鼓判を押す。

有賀社長も「クイックデッキならフロアが開放されるため、作業中でも体育の授業や部活動ができる。これを実績とし、今後は子どもたちに体育館を開放してあげたい」と展望する。

東北では、土木工事での活用が中心だった同システムだが、今回の工事を契機として、大空間建築物での活用が広がっていく。

本社 仙台市青葉区春日町7-5 TEL022(221)4601(大代)
 青森支局 青森市古川1丁目21-11 TEL017(722)8631(代)
 岩手支局 盛岡市菜園1丁目3-6 TEL019(651)8045(代)
 秋田支局 秋田市山王4丁目3-10 TEL018(862)6921(代)
 山形支局 山形市松波1丁目10-16 TEL023(641)2800(代)
 福島支局 福島市宮下町17-20 TEL024(534)0138(代)
 東京支局 東京都江東区豊洲1-3-2 TEL03(5547)1367

建設新聞

2015

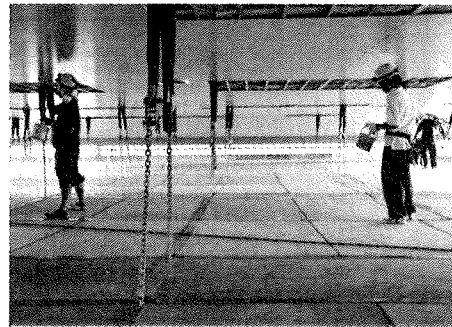
9月9日

水曜日

日綜産業

公共施設天井改修では全国初

吊り足場「クイックデッキ」を採用



クイックデッキでの作業風景

三川町発注の「三川町立東郷小学校屋内運動場天井等落下防止工事」において、日綜産業（東京都中央区 小野大社長）の吊り足場「クイックデッキ」が採用されている。公共施設の天井改修工事では全国で初となり、今後の普及が期待される。

クイックデッキとは、高い安全性と施工性、効率性を持つ吊り足場として昨年6月の発表以来、大型ショッピングモールや航空機組立工場新築の

天井工事、橋梁補修工事など50の現場で採用されている。

主な特徴として▽基本構成部材はシステム化されており専用工具を必要とせず人力で簡易に組立可能▽常に床を先行して設置できるため安全に吊り足場を組み上げられる▽作業床は最大5m跳ね出し可能でこれまで困難だった箇所にも設置可能▽広い吊りチェーン間隔と段差が無いフラットな作業空間などが挙げら

れる。また、工場での天井改修工事では、製造ラインを止めずに足場施工が可能なのが発注者から高く評価されている。

今回の工事（工期は6月18日～9月30日）は、鶴岡建設が受注し、有賀組が足場組立を担当。小学校体育館（天井高9・8m）の天井等

落下防止工事の足場として、地上約8mの位置に750平方mのクイックデッキが組み立てられている。

作業を担当した有賀組の有賀哲社長は「組立がこれまでに比べて簡単なので、約半数の作業員で設置することができたのでとても助かる」と高く評価。また、鶴岡建設の遠藤豊彦現場代理人は「墜落転落災害の心配は無く、作業効率性も非常に良い」と話していた。

9月9日

(水曜日)

平成27年(2015)

毎週水曜日発行

昭和30年2月20日

第三種郵便物認可

購読料・4ヶ月・本体価格16,000円
税込み17,280円

建設山形

メールアドレス/support@tkknews.com
ホームページアドレス/http://www.tkknews.com

発行所

株式会社 東北建設工業新聞社

本社

山形市城西町4丁目5-34

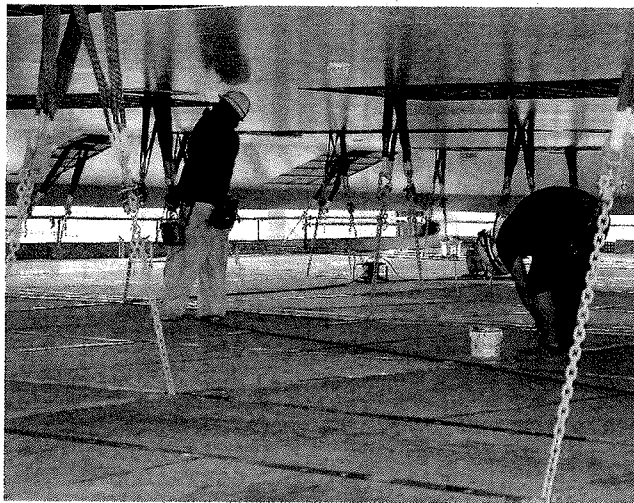
電話(023)643-5611代表

FAX643-5612

日綜産業(東京)の「クイックデッキ」

三川町東郷小屋体で 現場見学会ひらく

日綜産業(株)(本社・東京・小野大社長)の先行床施工式フロア型システム吊り足場「クイックデッキ」が三川町の東郷小学校屋内運動場天井等落下防止工事で公共施設のメンテナンス工事としては国内初採用され、四



日に現場見学会を行った。写真 二 今回の工事は屋内運動場の床八mの高さに約七五〇㎡の吊り足場を作り上げ、既存天井仕上げ材を取り外し、耐震金物施工、天井仕上げ材復旧などを行う。工期は九月

三十日までで、進捗状況は約七〇%と工事は順調に進んでいる。組み立て作業は五人で約一〇日間程度と従来の吊り足場と比較しても少ない。県内五現場でクイックデッキの足場組み立てを全て担当している有賀

組の有賀哲社長は「今回建築の現場は県内初であるが、足場が組み上がったしまえば屋内運動場のフロアは開放はでき、長期休暇の間でなくても工事が可能になる」と安全性にも自信を持つ。また、有賀組の蛸井寿昭常務はクイックデッキの資機材等は従来工法よりもコスト高は否めないが、建設現場での労働者不足が課題となつている中、「少ない人数で簡素・省力化作業は人件費縮小、工期短縮と安全性のメリットは大きい」と話しており、問い合わせも増えているとした。

施工を担当している鶴岡建設の遠藤豊彦建築係長は、「高い安全性による現場管理のし易さ、吊り足場の少ない広い空間が確保でき段差や浮き沈みのない現場は作業効率があがる」と高く評価した。「クリックデッキ」は米国で開発された製品を同社「3Sシステム」に機能を付加。床材のたわみを防止する孫梁を十字に追加するなど安全基準の高い日本仕様へ改良。昨年六月から国内での販売・レンタルを開始している。今年五月には国土交通省の新技術情報提供システム「NET IS」に登録も完了しており、足場架設の安全性・スピード性はもちろん、高いシステム強度、快適な作業空間など多彩な現場環境にも対応し、これまでの納入実績は五〇件を越えているという。また、新技術展示会「EE東北15」に出展の影響などもあり注目を集めている。今後は橋梁・建築物等の耐震点検・補修の公共メンテナンス工事で市場拡大を図っていく考えだ。